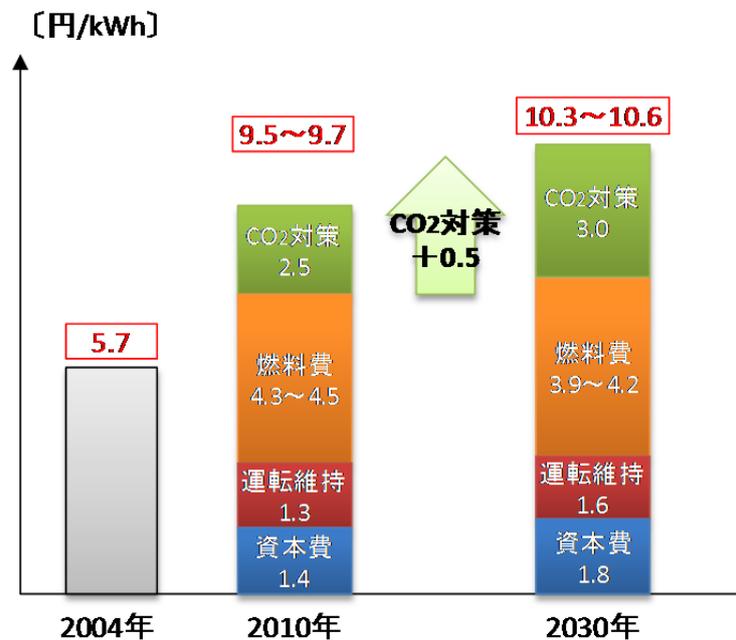


(1) 石炭火力

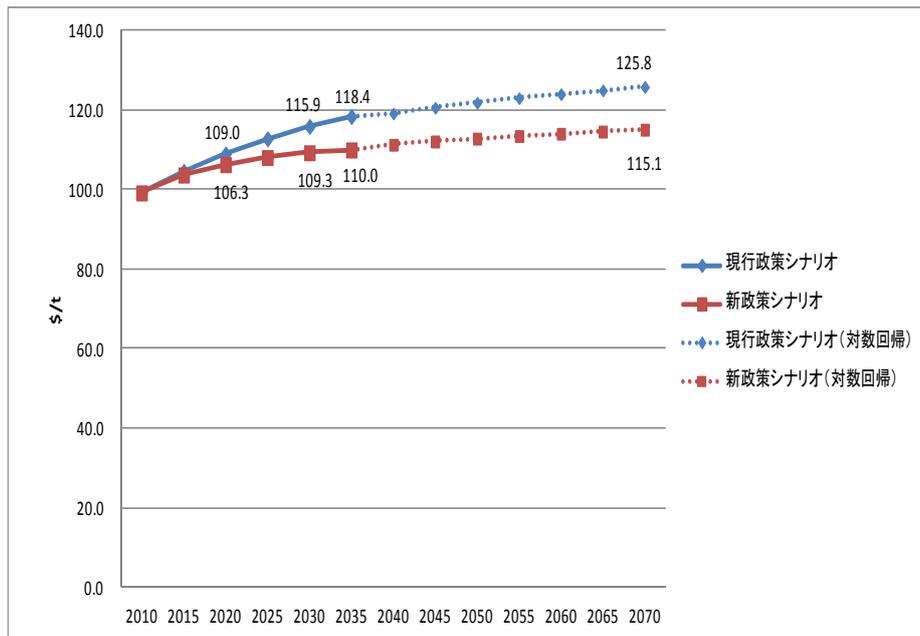
- 石炭火力については、燃料費の上昇に加え、今回から追加した CO₂ 対策費用が全体の 2～3 割を占め、04 年試算と比較して、2010 年モデルプラントで、+約 3 円/kWh の 9.5～9.7 円/kWh、2030 年モデルプラントでは、10.3～10.6 円/kWh となった（割引率 3%、設備利用率 80%、稼働年数 40 年）。
- この水準は、原子力の発電コスト（8.9 円/kWh 以上）とほぼ同じといえる水準であり、本試算のように CO₂ 対策費用を加味しても、コスト的には、同レベルといえる。
- ただし、CO₂ 対策費用は、政策や国際水準次第で上下したり、また、対策の実施が遅れば遅れるほど、より高い費用を要する可能性もある。



(図 1) 石炭火力の発電コスト (04 年試算・2010 年・2030 年)

(表 1) WE02011 における石炭価格見通し (\$/t)

	2010 年	2015 年	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年
現行政策シナリオ	99.2	104.6	109.0	112.8	115.9	118.4
新政策シナリオ	99.2	103.7	106.3	108.1	109.3	110.0



※発電コスト試算に際しては、初年度価格を2010年度平均CIF価格（\$113.91/t）とし、次年度以降について上記のWE02011を基にした試算値の価格トレンドを適用。

（図 2）WE02011 を基にした石炭価格の試算値（\$/t）